巻頭特集

動物彫刻家・はしもとみお

彫刻で残す動物との一期一会

あくびをするキジ猫、幸せそうな表情で眠る柴犬、並んでこっちを見つめるプレーリードッグ――。
ふと撫でたくなる木彫りの動物を生み出すのは、いなべ市在住のはしもとみおさん。
自然に囲まれたアトリエの中で、人を癒す彫刻を生み出しています。

「いつでもまた会える」本物さながらの動物彫刻

いなべ市にあるアトリエ兼自宅に足を運ぶと、元気のいい黒い柴犬が駆け寄ってきました。「月くん」と優しい声で呼びかけるのは、飼い主で動物彫刻家のはしもとみおさんです。

アトリエに目を向けると、たくさんの動物の真ん中に、ハイタッチのポーズをとる月くんが立っています。本物と見間違えるほど精巧な月くんは、実は木製彫刻。ビー玉のようにつやつやとしたまんまるな目や、ふわふわの毛並みも、しっかりと表現されています。

はしもとさんは、兵庫県出身。「幼い頃から動物が大好き。実家では猫と暮らしていて、将来は獣医になりたいと考えていました」と幼少期を振り返ります。1995年1月17日、阪神淡路大震災が発生。街中にいた犬や猫をはじめとする動物たちは、一気に姿を消しました。「生と死を経験し、『死者と再び会えたら』と願う人が多いと感じました。亡きものの姿を忘れてしまわないように、作品として残したい」と、美術の道に進む決意をします。絵画や写真でなく彫刻を選んだのは、手で触れられる立体物だから。東京造形大学彫刻専攻に進学し、彫刻に必要となるデッサンの知識をはじめ、刃の使い方などを習得。表現の幅を広げるため、絵本製作にも挑戦しました。

さまざまな技法を使い毛並みや質感を表現

はしもとさんの作品には、全てモデルがいます。当初は、愛するペットを木彫で残したいという注文制作が中心でした。最初の依頼主は大学の恩師。その後、作風が口コミで広まりました。「依頼者が飼っていたのであれば、カメレオンや爬虫類、アロワナといった古代魚まで、どんな動物でも制作の依頼を受けました」と話します。

制作は、モデルとなる動物のスケッチからスタート。入念な下調べのために、対象の動物に何度も会いに行ったり、写真をたくさん入手したりします。

木材は、独特な香りで虫を寄せつけにくく、彫りやすいクスノキを使用。「大型作品の場合は、型取りにチェーンソーを使います。なかなかの力仕事で、1時間も作業していればマラソンぐらいの運動量」と笑います。肌や毛並みの質感を大切にしているはしもとさん。鳥獣には刃の粗い彫刻刀を使い、木の表面をガサガサにして毛並みを表現します。一方、ツヤのある爬虫類や魚類には鋭い刃で光沢を演出。「犬の毛一つとっても、長毛種と短毛種では大きく異なります。一体一体に合わせて、彫り方を変えています」

死後数十年経ったペットをモチーフにしたこともあるといいます。「写真を見ながら作品を手がけました。完成したものを渡したとき、依頼主の方は涙を流して喜んでくれました。命を吹き込みたいなどの特別な思いはなく、写真と同じように記録するもの。作品名には、依頼主の方が親しんだ愛称をそのまま用いています」

自然に囲まれたアトリエで多くの人を癒す彫刻を制作

いなべ市に移住してきたのは、2013年6月。名古屋市内の7畳一間のアトリエを手狭に感じていたとき、アートを通して知り合った夫婦から、紹介を受けました。軽い気持ちで訪れたところ、山や田んぼに囲まれた環境に一目ぼれ。「住める状態ではなかったため全改装して、念願の広いアトリエができました」とほほ笑みます。

「とても居心地がいい。広い敷地と静かな環境がありながら、東京にも大阪にもアクセスの便がいいのも気に入っています。それに、材料となるクスノキもたくさんあります」といなべ市での暮らしに大満足の様子。移住後は、いなべ産のクスノキを使う場合がほとんどで、地域の人から倒木をもらうこともあります。

現在は、個展のための制作が中心。「大きな熊を彫ろうと、度会郡の大内山動物園に何度も行きました。性格を知るために、飼育員の方から日頃の様子が分かる写真ももらいました」。等身大のウマグマ「シユウくん」は展示会での一番人気。『見て、触れて、楽しんで』が展覧会のコンセプトです。子どもたちが観たときに、『熊ってこんなに大きいんだ!』と、大きさを体感してほしいですね」。0歳の子どもから大人までが動物園のように楽しめるのも、多くの人が個展に足を運ぶ理由の一つです。

10月8日には、阿下喜の桐林館で「お絵描き教室」を開催。子どもを対象に本格的なデッサンの技術を教えます。「このあたりは都心に比べて、芸術の文化や技術に触れる機会が少ない。本格的な技術を教えて、感覚の鋭い子になってほしいですね」と、地域の人や作家との交流にも積極的。「三重県北部はモノづくりをする人にとって環境がいいと思います。みんなで地域の文化活動を展開していけたらいいですね」と続けます。

彫りたいものは、まだまだ無限大にあるというはしもとさん。「古代から制作されてきた人物彫刻に比べ、動物をモチーフとした彫刻は、まだまだ少ないように感じます。それを残していけるのがやりがい。私が昔に生きていたら、ハチ公も残したかったですね」と、笑顔で話します。

思い出の姿を形にした木彫の動物。本物さながらの作品には、一匹一匹との出会いを大切にするはしもとさんの温かい心が宿ります。

イベントの打ち合わせや、展覧会などで多忙の日々を送るはしもとさん。制作できる日は、朝9時～夕方までひたすら彫り続けます。月くんとはいつも一緒。幼い頃からアトリエにいるため、木くずが降ってきても平気といいます

胸元の三日月模様が特徴の「月くん」。現在の月くんは、2代目。大学時代から最近まで一緒に過ごした初代が旅立ち、昨年、新しい家族として迎えました

1 彫る前の木材。最終的には、3分の1ほどの大きさになるそう。制作過程で出る木くずは、薪ストーブの燃料に　2 自宅にあるアトリエ。移住前はアトリエが狭く手元に残せなかった動物たちも、広いアトリエに残せるようになりました　3 可愛らしい動物の寝姿。「いろんな動物の寝姿を並べたベッドの上に、来場者も一緒に寝転がるような展示をしたい」とイメージを膨らませています　4 月くんの彫刻は、初代と合わせて10体以上もあります。右下は、生後数カ月のときのもの。現在は2カ月で4倍の大きさに成長し、作品からは動物の成長も感じられます

profile

はしもとみお

動物彫刻家。1980年、兵庫県生まれ。阪神淡路大震災後、美術の道を志す。2005年に東京造形大学美術学科彫刻専攻を卒業し、2007年に愛知県立芸術大学院美術研究科彫刻専攻を修了。現在はいなべ市に住みながら、全国各地で「見て、触れて、楽しんで」をコンセプトに個展を開催

information

お絵描き教室

小学生を対象としたデッサン教室です。完全予約制。詳しくは桐林館(0594-72-6096)に問い合わせください

場所 桐林館阿下喜美術室(いなべ市北勢町阿下喜1980)

日時 10月8日(月・祝)10:00～11:30

開館30周年記念
どうぶつ家族たちの物語 はしもとみお木彫り展

招待券をプレゼント! 詳しくはP.62で

期間 ～12月2日(日)

場所 平野美術館(静岡県浜松市中区元浜町166)

時間 10:00～17:00(入館は16:30まで)

休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)

一般500円／中高生300円／小学生200円
※土日に限り小中学生は無料

はしもとさんの詳しい情報は公式ウェブサイト(http://kirinsan.awk.jp/)でご確認ください。

文／青野穂波　写真／キャラバン デザイン／chica